

平成25年度(第43回)

釧路市スポーツ賞

渋谷勝司氏



永年にわたり軟式野球の普及振興に貢献された、釧路軟式野球連盟副会長：渋谷勝司氏(72歳)が本年度(第43回)の釧路市スポーツ賞を受賞されました。

渋谷氏は昭和58年に釧路軟式野球連盟の役員に就任以来、全道、全国規模大会を積極的に誘致し、円滑な競技運営に手腕を発揮して数多くの大会を成功に導きました。

平成11年からは審判部長として後進審判員の育成に精力的に取り組まれております。

平成20年からは釧路軟式野球連盟副会長として、豊かな経験、適切な判断力、強靱な実行力をもって連盟の組織拡大、軟式野球の発展に大きな足跡を残されました。

さらに、還暦野球の現役選手として野球少年たちと交流を深めながら指導に汗を流し、朝早くから日が落ちるまで審判員として球場に立つ姿は、まさしく生涯現役の言葉がふさわしく、釧路軟式野球界における模範的存在であります。

ひたすらに軟式野球を愛し続け、今もなお釧路市のスポーツの普及振興に多大なる貢献をされております。

平成25年度釧路市スポーツ賞授賞式(釧路市教委主催)が10月19日、釧路キャッスルホテルで行われました。賞状を手渡した釧路市教委の北明教育委員長は、「野球を愛する青少年の模範ともいふべき活動に敬意を表する」とその功績を讃えました。受賞者の渋谷勝司氏は、「非常に光栄で重責を感じる。体が続く限り球場に立ち、青少年の育成やスポーツ貢献のために頑張りたい」と謝辞を述べました。

釧路市民球場大改修 14年度から 3カ年で

築後31年が経過し、老朽化が著しい釧路市民球場の大規模改修が2014年度から始まります。

昭和58年7月にオープンした釧路市民球場は、5月1日から10月10日の期間中、幅広い世代が利用し、各種大会を開催してきましたが、老朽化は施設全体に及んでおりました。トータルな改修整備について根気よく要請を重ねてきた努力が実を結びました。

2011年度の施設劣化度調査、昨年度は改修内容の検討、そして、今年度は実施設計を行っており、3年間の準備期間を経て、ついに工事に着手することとなりました。

改修事業は3カ年計画で進められ、建築、設備

を先行し、最終年次にグラウンドを整備。なお、15年度の工事には関係者待望の電光掲示板が設置されます。

14年度の工事内容である内野スタンドの床張替え、内外野フェンスの更新などについては、大会や練習に極力支障のない範囲でとし、7月中旬から工事の開始を予定しており、年内に屋外での作業を終える見込みとなっています。

球場の改修により、釧路市でのプロ野球一軍公式戦の再開が実現するよう期待が高まります。



祝 釧路地方陸上競技協会 創立80周年記念式典

釧路地方陸上競技協会（張江悌治会長）は、11月9日、ANAクラウンプラザホテル釧路で、創立80周年記念式典・祝賀会を行いました。

出席者らは、節目の年を祝うとともに、釧路地区における陸上競技の振興に向けて決意を新たにしました。

同協会は1933年（昭和8年）、北海道陸上競技協会の発足に呼応して設立され、釧路地区における陸上競技の活性化や人材育成などを推進してきました。

式典には、来賓と役員、関係者ら50人が出席しました。張江会長は「釧路地方陸上競技協会は、多くの苦難を乗り越えて今日がある。7年後の東京五輪に出場できる選手をみんなで育て、釧路地区の陸上競技をいっそう盛り立てていきたい」と理解と協力を求めました。



全道小学生アイスホッケー選手権大会 釧路鳥取西小チームが初V

第34回全道選抜小学生アイスホッケー大会は、1月11日に開幕。全道各地の代表14チームが3日間にわたって熱戦を展開しました。

大会最終日の決勝戦は、地元鳥取西小が昨年の覇者である清水御影と激突。接戦を競り勝ち、初優勝を飾りました。

鳥取西小は劣勢に立たされた第1ピリオドを無失点で切り抜け、第2ピリオドに2点を先制。しかし、第3ピリオドでは清水御影の猛反撃に遭い、結局試合を2対2の振り出しに戻されました。延長でも互いに譲らず、ゲームウィニングショット3-2での決着。勝利を収めました。

昨年、一昨年のこの大会で苦杯をなめた難敵との激闘を見事制することができたのは、氷都くしろっ子たちの厳しい練習に裏打ちされた勝利に対する強い思いでした。



釧路市長・市議会へ（12/26）

体育施設の補修、備品整備要請

釧路市体育協会は、2014年度予算編成に向け、市内の社会体育施設の補修・改善、備品整備等の充実を求める要望書をまとめ、蝦名市長と黒木市議会議員長に特段のご理解とご配慮をお願いしました。

スポーツ関係の13団体から寄せられた計50項目の要望を盛り込んだ重点項目は、①湿原の風アリーナ釧路の施設・備品等の整備、②大規模運動公園内体育施設の計画的な補修と更新、③社会体育施設の早期補修・改善など。

当日は張江会長はじめ横地、北村、足立、菅原各副会長、高橋専務理事の6名が出席。

蝦名市長からは、「目前のソチ五輪や東京五輪の開催決定など明るいニュースが続く中で、スポーツ振興のため十分な対応に努めたい」との理解を示していただきました。



社会貢献活動（11/2・12/8）

赤い羽根共同募金活動

赤い羽根共同募金活動への協力は当協会の継続事業であり、今年で4年目を迎えました。

北海道ジュニア体操・新体操選手権大会が開催された湿原の風アリーナ釧路、アイスホッケーアジアリーグ「日本製紙クレインズ-王子イーグルス」戦が開催された釧路アイスアリーナの2か所で実施しました。

会長はじめ理事ら多数の役員が、たすきや募金箱を携えて、応援や観戦に訪れた市民に協力を求めました。

「釧路市体育協会です。ご協力をお願いします」との声に、多くの来場者が募金に温かく応じてくれました。とりわけ、お子さん連れの協力が目立ちました。2回の活動で46,883円もの善意が寄せられ、12月9日に釧路市共同募金委員会へお届けしました。



北海道ジュニア大会を終えて

鈞路体操連盟

会長 横地 敏光



第36回北海道ジュニア体操競技・新体操選手権大会が平成25年11月1日から3日まで全道から389名の選手が参加して湿原の風アリーナ鈞路で行われました。

行われました。

平成18年厚生年金体育館で開催した時は、何台ものトラックで野幌から器具を運び、狭い体育館で器械体操と新体操の準備をしたことを思うと今回の大会はとても贅沢な大会となりました。お陰様で大きな怪我もなく無事に終えることが出来たのは、最新の体操器具と鈞路役員の頑張りがあったからと、大変ありがたく思っています。

現在150余名の加盟があり毎年、鈞路秋季大会・横地杯体操競技大会の2大会を開催して器械体操の普及に努めています。また、湿原の風アリーナ鈞路が出来てからは「2008北京オリンピック体操男子帰国報告会」「2009池谷幸雄氏によるこども体操教室」「2010東日本ジュニア大会」と大きな行事を開くことが出来ました。これからも全国レベルの大会を招致し、選手の技能向上はもちろん、老若男女誰もが見て楽しめる器械体操大会を開催し広く普及に努めていきます。

銀輪とともに60年

鈞路サイクリング協会

会長 小畑 保則



還暦を迎えた当協会は、昭和29年6月に設立。当時体協会長で開業医の、上田五郎氏を初代会長に誕生致しました。

日本サイクリング協会の支部団体に所属し、会員数は60名程、少子高齢化の影響を受け新会員の勧誘が望まれるところです。道路交通法が改正され自転車に対する規制が強化され交通弱者として見られていた自転車もルール無視等で事故多発。会員としても遺憾に思っております。

鈞路空港敷地内にサイクリストが利用するサポートステーションが完成。国内外から訪れる観光客が自転車を組立する施設とあって喜ばれる事でしょう。当協会は、スピードを競う事は無く、個々人の体力に合った何時でも自由に自転車を楽しみ全身で風を感じる生涯スポーツとして普及を楽しむ団体。5月～10月頃サイクリングを楽しんで、全国大会や地方でのサイクリング大会も積極的に参加。平成29年夏には、全道サイクリング鈞路大会が20年振りに開催を予定しております。事故防止へ向けて模範となるよう努力しております。(文責 時田英明)

ジュニア世代の競技人口拡大を目指して

鈞路ハンドボール協会

会長 山本 直樹



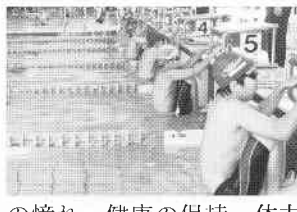
1980年代半ばに鈞路市の中学校からハンドボール部が消えてしまった。その間、国内的にはジュニア世代の競技人口拡大が進み、小学生のハンドボール少年団設立、また

中学生の部活動も少しずつではあるがチーム数が増えている状況であった。その傾向は道内各地区でも同様であったが、鈞路地区のみが中学生以下の競技人口を数えることができないまま数十年経過していた。2009年に小中学生を対象にした「メーヴェン鈞路ハンドボールクラブ」が設立され、鈞路でも小学生、中学生がハンドボールをする機会と場所が生まれた。現在は鈞路市内の小中学生男女40名ほどが所属しており、全道大会などにも積極的に参加している。この5年間で小学生は道内でも有力チームを抱える函館と互角に渡り合うまでに成長するとともに、小学生から経験をしている子たちが競技を継続して構成している中学生チームは、先日行われた全国大会北海道予選で準優勝するまでに成長している。競技人口拡大と競技レベル向上をジュニア世代から目指し、さらにハンドボール競技の発展に貢献していきたい。(文責 中川満則)

「I Love♥水泳」を増やそう!

鈞路水泳協会

事務局長 林 百華



水泳は生後6ヶ月程の赤ちゃんからご年配の方まで広く楽しめるスポーツです。水泳を始めるきっかけとしては、子供の習い事として、競泳への憧れ、健康の保持、体力増進、リハビリなど多岐にわたります。

鈞路水泳協会は昭和43年5月に設立されました。以来、各種水泳競技会ははじめ水泳教室や講習会等を開催して、鈞路管内及び道東における水泳競技の普及と競技力向上に努めてきました。

現在は市内のスイミングクラブやスクールなどの協力により、多くの水泳愛好者に加わっていただいております。また、ジュニア選手の競技力向上を重点的に取り組んでおり、インターハイや全国中学出場者を輩出しております。とりわけ、2009年、2011年、2012年度の全国JOCジュニアオリンピックカップではいずれも2名が優勝するなど指導の成果が顕著になってきているところです。

今後、当協会としてはジュニア選手の強化指導を中軸に据えながら、幅広い年齢層で楽しむことが可能な水泳というスポーツを、いろいろな角度から普及振興に努めて参ります。

氷都：くしろ 市民のスポーツイベント 冬季体育祭 総合開会式

第68回釧路市冬季体育祭の総合開会式が12月5日(木)18時から、釧路市民文化会館展示ホールで開かれ、集まった100名の選手らが健闘を誓い合いました。12月9日に開幕のアイスホッケーを皮切りに、3月まで5種目のウィンタースポーツに約2500人が熱戦を展開しました。

開会式では、昨年の覇者がそれぞれ優勝杯を返還。レプリカを受け取りました。大会長代理の関根誠生涯学習部次長は「市民の生活に冬季スポーツが



大会委員長挨拶



選手宣誓

根付いていることは誇らしい」と期待を寄せました。

さらに、大会委員長の張江体育協会長からは、「氷都・釧路も冬の競技人口が減少しているが、それに歯止めをかけているのがみなさん」と出場選手に対しエールが送られました。

その後、選手団を代表して長靴アイスホッケー大会に出場する「ヘアハウスキタかみ」の北上俊幸キャプテンが「最後まで正々堂々戦います」と宣誓し、今大会での意気込みを示しました。

釧路市スポーツ少年団 加入促進の取組みを

昭和59年11月、「スポーツによる青少年の健全育成」を目的として設立された「釧路市スポーツ少年団」。以来、スポーツ少年団活動が広く関係者や保護者に理解された結果、種目数、団体数、女子団員の増加など発展を遂げました。

しかし、昨今の少子化とともに、スポーツを「する」「しない」の両極化傾向は少年団の加入にも影響を与え、現在の団員数はピーク時の4分の3までに減少しております。このペースでの推移では、スポーツ都市：釧路の未来が危惧されます。

成長期にある子供たちには、それぞれの発達段階に応じた適切な指導が重要となります。釧路市スポーツ少年団では、スポーツをメインとしながらも、交流活動・学習活動・社会活動など体と心が健やかに育まれる幅広い体験内容を年間事業に位置付け、より多くの少年少女たちの健やかな成長を望んでおります。

そこで、支部並びに種目団体におかれましては、スポーツ少年団に加入していないスポーツ団体やスポーツ少年少女たちに対し、加入に向けた取り組みを組織的かつ強力に進めていただきますようお願い申し上げます。

釧路管内体育協会連絡協議会 (11/30~12/1) 資質向上研修会

釧路管内8市町村の各体育協会で開催する釧路管内体育協会連絡協議会は、厚岸町で「資質向上研修会」を開催しました。

管内におけるスポーツの振興と連携強化を目的とするこの研修会に、各体育協会の役員ら30名が参加しました。

1日目は、『減塩で健康に!! いつまでもスポーツと関わり続けるために~』のテーマで厚岸町健康福祉課健康づくり係長の宮川智香保健師からの講演。成人1日の食塩摂取目安は男性で9.0g未満、女性で7.5g未満。各種食品に含まれる食塩の量などわかりやすい説明をいただきました。

2日目は、遠矢ささき整骨院の佐々木大剛院長からの『スポーツテーピング』の講義。伸縮性の有無などテープの種類に応じたテーピングの目的や方法を学びました。その後の演習では、スポーツをする側・指導者側の双方に役立つ予防や応急処置としてのテーピングを行いました。



スポーツテーピング

編集後記



スポーツには見る者を前向きにさせる不思議な力がある。ひたむきにプレーする選手の純粋な姿は、無条件に感動を呼び起こす。まして、思いを一つにして応援する者たちにとってはなおさらである▼ソチ五輪の期間中、釧路市出身選手を応援するPV(パブリックビューイング)が「まなぼと」で開催された。会場の大ホールには、種目団体の関係者はじめ市民約450名が詰めかけた▼「主力応援! SOCHI」の文字の入ったステイックバルーンを鳴らしながら画面に見入り、送る声援。会場は一体化し、画面に映し出される選手のプレーに一喜一憂し、エネルギーが響きわたる▼スポーツの振興は、まずもって釧路市民一人一人の自覚と主体性が前提となる。スポーツと関わりをもてる場面は様々である。家庭で取り組む、学校で頑張る、地域で担う▼それぞれの機能に応じた役割分担の中で「スポーツの力」を十分に発揮させたならば、「スポーツ都市宣言」の理念は鮮やかに具現されていくこととなる。